

学習指導案と評価シートの活用

1 はじめに

本校では、これまでも全教職員をグループに分け、研究テーマを決めて2，3年計画で研究を重ね、月1回の研修日を設定して授業研究を継続して行ってきた。しかし、研究授業や授業研究会で討議を行っても、それが次回の授業に生かされにくい現状があった。焦点授業を行った授業者にとっては、自身の指導力の向上になるが、学校全体の授業改善にはつながりにくい面があった。

平成20年度より授業評価シートを作成し、研究授業参観の際に記入して授業者に返すようにしたが、児童生徒の実態を知らない参観者にとって評価しにくいなどの課題があったり、評価内容をいかす手順が明確でなかったりした。

今年度、授業改善プロジェクト研究を進めるに当たり、授業を改善するためには、授業に対する他者評価と自己評価が不可欠であり、指導案とともに評価シートが重要な役割を果たすことを改めて認識した。

そこで従来の学習指導案と授業評価シートの様式を再検討することとした。

2 学習指導案について

学習指導案の様式については、単元観や指導観を書き、学習展開過程、児童生徒の実態と授業における個別目標を盛り込んだ3～4ページに渡る細案(資料1)と細案を1枚にまとめた略案(資料2)の二つの様式を作成した。本校の授業改善プロジェクトにおいては、全教職員が年間3回の研究授業を行うことを基本とし、焦点授業については、原則として細案を作成し、その他の授業については、どちらの様式を使用してもよいこととした。

作成に際しては、部主事の指導を受け、複数で授業を行う場合には授業者で十分に検討を重ねることとした。以下、指導案の様式についての改善点を記す。

(1) 略案における単元観等の記入

研究授業においては、大部分の教職員が略案で指導案を作成して授業に臨んだ。しかし、一回目の授業の略案様式には、指導観等の記入欄を設けてなかったため、実際に授業を参観してみると、取り扱っている単元や題材についてどのような指導観を持って授業を計画したのか、どのような力を養うために設定したのかなど分かりにくい点が多かった。そこで、指導観等を記入する欄を設けることにより授業者が明確な指導観を持って題材や単元を設定し、指導に当たることとした。

(2) 授業改善につながるPDCAサイクルの確立

年間3回の授業研究を行うに当たって、「改善」を実現するために、前回の授業から得た改善のポイントを明確にして次回の授業に臨むことができるよう新たに「改善点」を記入する欄を設けた。その結果、参観者にとっても授業評価のポイントがより明確になり、評価力の向上にもつながった。

(3) 評価の視点の記入

各活動における児童生徒個々の目標を明確にするため、展開過程に評価の視点を

記入することとした。各活動における目標を明確にすることにより、必要な支援が見えやすく、教材の準備や工夫、TTによる分担が分かりやすくなった。また、評価することを前提に活動を組み立てることで、これまで漠然としていた本時の個々のねらいがより具体的になった。

3 授業評価シートについて

(1) 参観者授業評価シートの活用 (資料3)

授業改善に向けた授業を評価するに当たって、参観者の授業評価の観点を児童生徒の意欲、環境設定や教材、教師の関わりの3点とした。ただし、4つ目の観点として授業者が特に評価してほしい点を加えることを可能とした。

第1回目の授業研究の際には、この各項目を4段階の数字で評価することとしたが、集計してみると、参観者の主観によって評価段階の差が大きく、集計した数値に意味が持てなかった。集計数値が意味を持つようになるためには、参観者の評価力が平均的でなければならない。そこで、2回目からの評価シートは、数字による評価を削除し、各項目を参考に自由記述を多くし、記述を集計することとした。

また、教師の直接的な支援については、「よい支援」「改善すべき支援」の二つを記述することとし、より具体的に評価することで、授業者に伝わるようにした。

授業改善が前提の研究授業であるから、改善点が明らかになるように5つめの観点を特に重視したいと考え、参観者が授業を評価するだけでなく、改善に向けてのアイデアを具体的に記入することにした。これによって、参観者も建設的な意見を考えることとなり、授業を見る視点が明確になり、評価力の向上につながった。実際に記入されている多くのアイデアから改善のヒントを得ることができた授業者も多かった。

研究授業は、研究協議の時間も限られることにより、感想や意見、改善点等の発言も限られ、ともすれば授業者をねぎらって終わりがちである。しかし、評価シートを記入することにより、多くの意見を得ることができ、限られた時間ではまとめられなかった意見を授業者に伝えることができた。また、記入された内容について更に話し合いを重ねることにより、一つの授業が次の授業に活かされやすくなった。下表に記入された評価内容の一部を抜粋する。

1 児童生徒の様子
<ul style="list-style-type: none"> ・提示された写真カードや絵カードに注目していた。 ・今から自分のすることが分かり、自発的に準備に取りかかっていた。 ・テレビ画面が見えにくい生徒は、集中が途切れがちだった。
2 環境設定について
<ul style="list-style-type: none"> ・準備物の配置が分かりやすかったので作業を次々に進めることができた。 ・手順書が実態に応じて作り分けられていた。 ・板書がすっきりとして分かりやすかった。 ・前時の内容が掲示されていれば、振り返りがスムーズにできたのではないかな。

3 教師の支援について	
良いと思った支援	改善すべき支援
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言を肯定的に受け止めてから正しい答えを導いていた。 ・教師自身がおおいに楽しんでた。 ・言葉のない児童の気持ちに添った言葉掛けがなされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が動く前に指示を出していた。 ・注目できているかの確認がなかった。 ・T1 の声が大きい。
4 授業改善について	
授業の具体的な場面	改善に向けてのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ・友達が発表するときに聞いていない生徒がいた。 ・グループを構成する人数が多すぎて授業の目標がおおまかになりすぎている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者がまとめたシートを教材提示装置で映し出してはどうか。 ・実態に応じて少人数に編成し、細かい目標設定をした方が良い。

(2) 授業自己評価シートの活用 (資料4)

評価の視点については、参観者授業評価シートと同じとし、上記と同様の理由で数字による評価をやめて記述式とした。本校では、複数の教員で授業を行うことが大半であることから、十分な打ち合わせが必要であるが、毎時間打ち合わせを行う時間的な余裕はなく、授業担当者がチーフとして計画を立て、他の教師がチーフの意図をくみ取りながら児童生徒の支援に当たるのが日常である。

しかし、授業を終えた後に自己評価シートを記入することにより、複数の目で授業を振り返ることができ、4つ目の観点では、反省点を分析し改善策を練ることによって次回の授業の改善につなげることができた。さらにこのシートから得られた改善点を次回の指導案の改善点にまとめることで、改善サイクルの定着を図った。

(3) 評価シートから明らかになった望ましい支援

全校で行われた授業の参観者評価シートについては、研究授業の度に本人に渡すだけでなく、係が取りまとめた。各項目に寄せられた意見を各部ごとにまとめ、さらに内容を集約したものが下表である。これは、学習指導案に基づいた相互評価を重ねることによって得た本校の財産である。

授業を行うに当たって整えなければならない環境や効果的な支援については、日ごろの授業の中で誰もが仮説をもっており、折に触れて話し合いがなされてきたが、今年度の授業実践の中でそれらの一つ一つが検証されたとも言える。参観者や授業者が書いた1枚1枚の評価シートによって確認された支援の在り方は、学校全体の授業改善が図られたことを示しているのではないだろうか。これらの効果的な支援を本校の授業におけるスタンダードとして継承し、スタートラインの誤差をなくすることで、さらに個々の授業力が向上するものと思う。

評価シートに表された効果的な支援

〔環境的な支援について〕

部	支 援 内 容
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や教材に注目しやすく、児童同士が関わりやすい座席配置 ・活動内容に関係ない刺激を除去し、提示物の背景に物を無くす。 ・必要に応じて教室を仕切り、活動内容や人数に適した活動面積とする。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化された分かりやすく活動しやすい教室 ・前時の学習内容を視覚的に提示し、振り返りやすくする。 ・身体の成長に合わせた机と椅子の調整 ・外からの光や影に影響され見えにくい場所がないように座席を考慮 ・課題やめあてが一目で分かる板書
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓された教室 ・支援しやすい、されやすい座席配置 ・作業スペースが広く作業しやすい机 ・道具の管理が整った教室 ・支援が無くとも準備や片付けができる教室

〔教材教具について〕

部	支 援 内 容
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・提示物は、児童が見やすい大きさとで作成する。 ・触って動かす場合は、手に取りやすい大きさの教材の使用 ・触覚、視覚など多感覚に訴える教材 ・身近な素材を利用して作成 ・容易に壊れない丈夫なものを作成
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の目を惹く魅力的で、完成形が分かりやすい見本 ・効果的な写真の使用 ・生徒の読み書きの実態に応じたワークシートの作成（マス目や補助線の工夫） ・主体的な活動を引き出す身近な題材 ・作業が円滑に出来る実態に合った補助具 ・季節や行事などタイムリーな題材 ・生活に生かせる題材 ・話しを聞くときに内容が分かる視覚支援
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に分かりやすい教材 ・プロジェクターの効果的な演出 ・色分けなどによる分かりやすいワークシート ・作業での完成品の見本提示 ・作業が分かりやすくなる実態に応じた手順表

[教師のかかわりや働き掛けについて]

部	支 援 内 容
小 学 部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一貫した穏やかな言葉掛け ・ 個別の指導目標を全ての授業者が理解した支援 ・ 児童の反応への臨機応変な対応 ・ 子どもの気持ちに添った言葉掛けで気持ちを共有 ・ 気持ちを惹きつける導入 ・ 注目を促す T1 の語りかけや表情 ・ よい行動は即座に具体的に褒める。 ・ せかさず、反応をじっくりと待つ ・ 児童との距離に適した音量の声でメリハリのある言葉掛け
中 学 部	<ul style="list-style-type: none"> ・ T1T2 の自然な連携 ・ 作業手順の丁寧な説明 ・ 生徒自身に学習段階が分かる評価の工夫 ・ 生徒自ら報告したり、質問したりするような意識付け ・ 興味をもたせる導入 ・ できたことを報告したくなるような褒め方 ・ 聞き取りやすい声量と話し方 ・ 発表の機会が全員に与えられ、全員が褒められる機会を作る。
高 等 部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒主体の授業 ・ T1 が生徒にとって魅力的なキャラクターであること ・ させるのではなく、生徒に考えさせる授業 ・ 生徒の発言を肯定的に受け止める姿勢 ・ 適切な行動様式を丁寧に指導 ・ 生徒の動きをじっくり待った言葉掛け ・ 本時での注意点を始めに提示することで支援を減らす。 ・ 困っていても声をかけないで本人からの働き掛けを待つ。 ・ どの生徒にも理解できるような簡単で分かりやすい指示 ・ 自ら報告できる配慮 ・ T2 の臨機応変な対応 ・ 一斉指導と個別指導のバランス

4 今後の課題

今回の研究においては、PDCA サイクルを活用するための学習指導案と評価シートの改善を行った。様式は定着してきたが、さらに検討を重ね、書きやすい見やすい指導案、授業の問題点が明確で改善策が書きやすい評価シートを検討していきたい。

今後は、授業前に使用する自己チェックリストのようなシートの作成や指導案作成の研修などを行い、さらなる授業力や評価力の向上を目指したい。

学習指導案

日時	平成 年 月 日 () 校時	場所	教室
対象	クラス、学級集団等	指導者	全員記入 (T1 を先頭)

1 単元 (題材)

2 単元(題材) について

(1) 単元(題材) 観

この単元(題材)を設定したことの理由。なぜ、この単元や題材を扱うのか、どんな効果が期待できるか。

(2) 児童生徒観

学習集団の構成や実態、学習活動に取り組む姿勢を基に、この単元に対してどのように取り組むかを予想し、単元(題材)の有用性について説明する。

(3) 指導観

指導に当たって留意すること。(1)(2)を踏まえた指導の進め方。

3 目標

- (1)
(2)

単元(題材)全体の目標をいくつか上げる。

4 学習指導計画(全 時間)

- 第1次
第2次

・・・ 時間
・・・ 時間 (本時その)

5 本時の指導

(1) 目標

-

本時 1 時間の目標をいくつか上げる

(2) 準備物

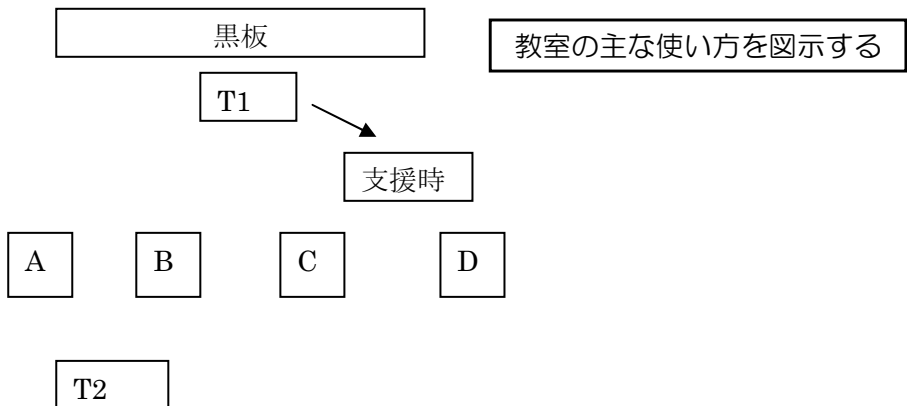
(3) 本時の展開

時間	学習活動	教師の支援と手立て・評価の視点 □			
		A	B	C	D
： (分)	1	児童生徒を ABCD で表記する。 ・ 支援や配慮事項を記入「させる」を使わないように語尾に注意 ～することによって～できるように導く。 ～待つ。～言葉掛けする。～働き掛ける。 ～につなげる。伝える。示す。確認する。			
： (分)					
	2	活動によって支援の方法が異なる場合は、児童生徒を実態別にグループ分けして支援や手立て、評価の視点を分けて記入する。		評価の視点を記入	
改善点	○ ○				

6 児童（生徒）の実態及び個人目標

	児童（生徒）の実態	個人目標 （* 自立活動における目標）	本時における支援の手立て
A	障害の状態及び授業の様子 特に本時の活動内容に関する実態	本時の授業における目標	本時の授業における目標達成のための個別の支援の手立て
B		* 自立活動における目標	

— 教室配置図 —



学習指導案

日時	月 日 ()	校時	部 科	学年・組	第 学年 組
単元 (題材)	単元全体の名前(本時のみではない)			場所	教室
授業者					
指導計画	1	単元全体の指導計画 本時が何時間目かを記入 (本時その)	… 時間	本時	
	2		… 時間	主題	
	3		… 時間	本時 目標	○ ○
徒観・指 導観等	単元観・児童生 児童生徒の実態をどのように捉えて単元(題材)を設定したか。 将来の生きる力に、どのようにつながると考えて指導するのかを具体的に記入する。				
児童 (生徒)	本時のねらい				
A	・本時1時間で達成可能な目標 ・評価が可能な目標(具体的な表現)				
B	・その目標が将来の生活(QOLを高めるために)の何に結びつくのか				
C					

○本時の展開

学習活動	時間	教師の支援と手立て・評価の視点		
		A	B	C
1	5	・教師の動きではなく子どもの活動を記入	・評価できる視点 (抽象的ではなく具体的な表現で記入。きちんと、ちゃんなどは評価ができない)	
2				
3		・目標を達成させるために行う支援を具体的に記入 ・単なる教師や子どもの活動ではなく意図的に行われる支援を記入 (～するために～を提示する) (～に活動するために工夫した～を使用する)	支援や評価を誰が行うのかを明確にする。支援には(T1、T2)などを入れる。	
改善点	・ ・ ・前時からの評価に基づく改善点を記入			

参観者授業評価シート

授業者氏名		学級	部 年 組	授業日	月 日 () 校時
教 科		単元名			

以下の視点で評価する。

1 児童生徒の様子

- ・児童生徒は、意欲的に授業に取り組めたか。
- ・児童生徒は、自分の意志を表現できたか。
- ・それぞれの個別の目標が達成できたか。
- ・児童生徒が関わり合う場があったか。

授業中の子どもの表情や姿勢、態度、活動の様子から評価する

2 環境設定について

- ・児童生徒にとって学びやすい環境設定だったか。
- ・目標達成に効果的な教材教具だったか。
- ・理解のために効果的な板書等がなされたか。

児童生徒が主体的に活動したり、学んだり考えたりするための環境設定について

3 支援について

- ・発問や言葉掛けに対する児童生徒の反応がよかったか。
- ・児童生徒の反応や様子を見ながらの授業ができたか。
- ・個別の指導目標を意識しての支援ができたか。

良いと思った支援について具体的に記入	改善した方が良いと思った支援について具体的に記入

教師の直接的なかかわりや働きかけなど、基本的な姿勢を評価する。特に他の授業においても参考になるような支援と改善すべき気になった支援について具体的に記入

4 授業者が評価してほしい視点

上記の評価ポイント以外で授業者が特に参観者に評価してほしい視点を記入する。

5 授業改善について

授業の具体的な場面

授業内容で改善が必要だと感じられた具体的な場面を記入する。上記1, 2, 3における評価を具体的に記述する。

改善に向けてのアイデア

右に書いた具体的な場面をどのように改善すればよいか、代案を記入する。

授業自己評価シート

授業者氏名	TTの場合は、全員で評価する	学 級	部 年 組	授業日	月 日() 校時
教科領域等		単元名			

以下の視点で評価する

1 児童生徒の様子

- ・児童生徒は、意欲的に授業に取り組めたか。
- ・児童生徒は、自分の意志を表現できたか。
- ・それぞれの個別の目標が達成できたか。
- ・児童生徒が関わり合う場があったか。

具体的に記入する

2 環境設定について

- ・児童生徒にとって学びやすい環境設定だったか。
- ・目標達成に効果的な教材教具だったか。
- ・理解のために効果的な板書等がなされたか。

具体的に記入する

3 支援について

- ・発問や言葉がけに対する児童生徒の反応がよかったか。
- ・児童生徒の反応や様子を見ながらの授業ができたか。
- ・個別の指導目標を意識しての支援ができたか。

具体的に記入する

4 授業改善について（本時の授業について）

反省点（具体的な場面）	考えられる原因	次回への改善策
授業を振り返り、目標達成できなかった具体的な場面を書く	なぜ、そのような反応や展開になったのかを考える。	同じような展開にならないように策を練る。

5 本時の自己評価から考えた今後の具体的な目標

児童生徒の主体性を高めるための
自立的支援を行うための自己目標
を記入する。